

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4590100758		
法人名	医療法人 高信会		
事業所名	真ごころグループホーム	ユニット名	1号館
所在地	宮崎市大字郡司分乙802		
自己評価作成日	平成30年1月15日	評価結果市町村受理日	平成30年3月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	true&JigyosyoCd=4590100758-00&PrefCd=45&VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/45/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kihon>true&JigyosyoCd=4590100758-00&PrefCd=45&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階
訪問調査日	平成30年2月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当施設は見晴らしの良い高台にあり、ホールから壮大な眺めが広がり、開放感がある。玄関前より遊歩道を作り安心して散歩や気分転換をしてもらい、利用者様の行動制限をする事無く、自由にユニット内は勿論、外への行き来をされ、一人ひとりにあった支援や関わりを多く持ち、信頼関係を築くように努めている。職員間のほう・れん・そうの徹底や利用者様の少しの変化でもミーティングを開き他職種の意見なども聞きながら、サービスの質の向上に努めている。管理栄養士が食事の献立を作成し、新鮮な食材が毎日配送され、安心安全な食事の提供を行っている。当施設の母体は、医療と介護の複合施設を持つ辰元病院であり、利用者様の身体状態の把握、健康管理に努めている。また、協力病院や当グループ内の様々な施設と連携を図り、適切な対応が出来るように努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは市の郊外の高台にあり、市街地が一望できる閑静な場所に立地し、同じ敷地内にある系列の介護付有料老人ホームと連携し2ユニットとして運営している。管理者と職員は運営の基本である理念について、法人全体の理念とは別にユニットごとに理念を作成し、毎年理念の見直しを行い、その理念を携帯し日々確認しながら実践に努めている。また、母体の病院から定期的に往診もあり、急変時の対応についても連携ができています。利用者の高齢化が進んでいるが、職員のケアにより利用者が穏やかに暮らせるよう支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ユニットホールに提示し、理念に基づいたケアは実践できているが、就業前の唱和は現在行っていない。ただし、毎月一回のミーティングで再確認をしながら業務の中で常に理念を意識している。	法人全体の理念とは別に、ユニットごとに独自の理念を作成している。ネームプレートの裏に理念を携帯し、日々確認しながら利用者の心に寄り添ったケアの実践に全員で取り組んでいる。毎年、理念の見直しも行っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	近くのスーパーやコンビニへ買い物に行ったり、散歩に出掛け近隣の人の会話や交流を図っている。	散歩時に近隣住民との会話や近くのスーパーでの買物時に交流等を行っているが、ホームが高台にあり、近隣に住宅が少ないことから、地域との交流が若干少ない。		ホームの行事に地域住民を招待したり、ボランティアや中学生の研修の受け入れ、保育園児、小学生との交流等、地域とのつながりを持つことに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	社協や地域の催し物に参加させて頂き、他の参加者やその他の方達との会話やゲームをしていく上で、認知症に対する理解を得られている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	サービスの実態、評価への取り組み状況、事故やヒヤリハットの報告を行い、サービス向上に活かしている。	運営推進会議の開催通知にあらかじめ議題を記載し、会議の活性化を図る取組を行っている。また、災害避難訓練への地元消防団の参加等について話し合い、その話し合いの結果が実現につながっている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センターと連携している。	市の担当者との連絡や協力関係は、母体の本部が行っており、必要な情報は本部からその都度ホームへ伝達されている。市が主催する研修会等に参加して協力関係を築いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者の行動制限をしないケアに努め、外へ出られる時はさりげなく付き添い自由に散歩をして頂いている。又、遊歩道を作りいつでも安全に散歩が出来るようにしている。	定期的に身体拘束の研修会や勉強会を開催し、職員は身体拘束の弊害について学び理解を深め、身体拘束のないケアに全員で取り組んでいる。日中は玄関の施錠はしていない。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修や定例会等で高齢者虐待について学ぶ機会を設け虐待に対する知識を高めるとともに、認知症に対する理解を深め、虐待防止の徹底を図っている。			

自己	外部	項目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人様との連絡・連携は密に取り、情報や状態の共有を行っている。又、後見人制度について、定例会やユニット会議等で学ぶ機会を設け理解を深めている。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分な説明を行い、疑問点や不安な点を尋ね、納得され安心して利用して頂くよう努めている。又、改定があった場合は速やかに連絡と説明を行っている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族がいつでも意見や要望が言いやすいように、雰囲気作りと管理者室に苦情や意見を投かんできる箱を設置した。	運営推進会議に家族の代表が参加して、意見や要望を表せる機会を設けている。また、家族の来訪時に本人を含めて気軽に話し合いができる雰囲気づくりに努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	誰でも意見や提案が言える職場内の雰囲気作りに努め、定例会・ユニット会は勿論、その他でも会話する機会を十分取っている。	毎月開催の職員会議やミーティングで、職員の意見や要望を聞く機会を設けている。また、管理者は年2回、個人面接を行い、個人的な問題から業務についての提案や意見等を聞き運営に反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人ひとりの実績や勤務状況、努力を把握し、年に2回の個人面談を設け目標や向上心を持っているか、やりがいはあるか等を確認しながら就業、環境整備を行っている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修を受ける機会を増やし、意識や介護技術の向上に努める。又、日々の業務の中で職員一人ひとりの実際の力量を把握し、その人に合ったトレーニングを行っている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流を増やし、相互訪問等の機会を作り、サービスの質の向上やスキルアップに向け取り組みをしていきたい。			

自己	外部	項目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回面接時に、御本人様が少しでも安心出来るような対応に努めている。又、入所時は環境の変化で不安がある為、関わりを多く持ち傾聴に努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申し込み時に御家族様が抱えている問題を出来るだけ理解し、安心出来る支援方法を一緒に考え、支援内容は適宜報告している。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	御本人様と御家族様が必要としている支援を見極める為に、常に観察と傾聴に努めている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者と職員が共に支え合って楽しさや喜びを分かち合える関係の構築に努めている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御本人様や御家族様の状況を踏まえうえで、可能な限り協力頂けるような信頼関係作りに努めている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会に気軽に来て頂けるような雰囲気作りに努めている。又、馴染みの場所や人との関係が途切れないように、年賀状等を出す等の支援をしている。	家族や友人、知人が気軽にいつでも来訪してもらえるよう雰囲気づくりに努めている。また、なじみの関係がとぎれないよう年賀状を出す利用者の支援も行っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	話しやすい利用者同士が関わり合い、支え合う事の大切さを味わって貰えるように、安全にゆっくり話せるように、さりげなく見守りを行っている。			

自己	外部	項目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後は、転居先に情報提供を行っている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活の中での会話や表情で入居者様の思いを感じたりして、職員間での情報の共有や意見交換を行い日々のケアに活かしている。御家族からの意見や情報は頂いている。	日々の暮らしの中で、利用者の表情や言動から思いや意向の把握に努めている。また、家族や関係者からの情報を収集して参考にしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前調査より情報収集を基に、御本人様や御家族様からも意向を探る等、生活が継続出来るように努める。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員間で常に情報の共有を行い、身体状態の把握や変化に気付けるようにしている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	御本人様・御家族様・職員から意見を聴き、御本人様にとって何が重要かを担当者会議で話し合い、現状に合った介護計画を作成している。随時見直しを行い御家族様の要望を伺い、変更がある場合は介護計画を見直している。	本人や家族と十分話し合い、職員や関係者の意見や気づきを反映した介護計画を作成している。モニタリングを定期的に行い、状況に応じて適切に見直しを行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	その日の身体状態の様子やケア内容・気づき等は、個別に記録し定期的に評価を行い介護計画の見直しをしている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	御家族様に協力を頂き、医療機関や専門職のアドバイスを受けながら連携を図り個人のニーズ合わせた対応が出来るように努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域包括支援センター・社協から情報を貰い、地区の行事参加やボランティアの訪問をして頂き、御家族や職員以外との交流の場を設けている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医に細かな情報提供を行い、指示を仰いでいる。受診困難な方には、無理の無いように定期的往診等への切り替えを行っている。	本人や家族が希望する医療機関で受診できるよう支援している。母体病院からの往診も定期的であり、急変時の対応も連携ができています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	些細な状態変化や気づきがあれば病歴との関連性や可能性を考え看護師へ報告している。又、看護師に昼夜問わず電話にて報告、指示を仰いでいる。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、介護サマリーを作成し、情報提供を行っている。入院中は出来るだけ面会に行き病院関係者と情報交換を行っている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合における対応の指針を説明し、理解をして頂いている。又、重度化した場合は主治医と連携を密に図りながら御家族様・職員間で話し合い、方針を決めている。	重度化した場合の対応については、利用開始時に本人や家族に方針を説明しているが、主治医との連携や職員をはじめとする受け入れ体制がまだ十分とは言えない。	利用者や家族、主治医、職員、その他関係者と十分話し合い、ホームの力量に応じた指針を作成し、本人や家族に説明の上、支援に取り組むことが望まれる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時対応マニュアルの見直しを定期的に行い、救急蘇生法等の外部研修に参加し、個人の知識や、実践力を身に付けたいと思う。又、職員全員での勉強会も行っている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の総合訓練と毎月1回の避難訓練を実施している。色々な状況を想定し課題の把握や改善が出来るように努めている。又、地元消防団も参加して貰っている。	総合災害訓練を年2回実施し、火災を想定した避難訓練を毎月行っている。避難訓練には地元消防団も参加し、地域との協力体制の構築に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の人格やペースを尊重し、その人に合った支援を提供している。本人の意思に沿った対応を行っている。		利用者の人格を尊重し、利用者一人ひとりに寄り添った言葉かけや名前の呼び方等に配慮している。特にトイレへの誘導や入浴時には利用者の尊厳を傷つけないケアを行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に利用者の表情や行動を見守り、自己決定がその都度出来るように、働きかけている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は、自分の常識に捉われる事無く、その時の、本人の意思や気持ちを汲み取った支援を行う。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時の着替えの洋服の選び等をして頂き、御本人の意向を取り入れながら支援をしている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その日のメニューはホワイトボードに記入し、皆が見える場所に置いている。又、利用者の好みの把握や代替えメニューの提供や、摂取しやすい形態での提供を行っている。		その日のメニューをホワイトボードに書き込み食事が楽しめるよう工夫をしている。また月に1回は利用者の好みを聞き、ラーメンの日、寿司の日等を設け、食事を楽しめる支援を行っている。後片付けを手伝う利用者もいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量のチェックを行い、一人ひとりの状態の把握をしている。個人個人の好みに合わせ、コーヒーや食べやすい御菓子類の提供をしている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々に合った口腔ケアを行い、自らが出来ない方には介助を行っている。義歯の方は、定期的に洗浄をしている。又、歯科往診の支援も行っている。			

自己	外部	項目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターン、表情や言動、行動で素早く察知しトイレ誘導する事で、失敗の軽減に努めている。		利用者個々の表情や行動、言動から排せつパターンを把握し、できるだけトイレで排せつできるよう自立に向けて支援している。紙パンツを減らす取組も行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	細目に水分補給を行い、食事は管理栄養士によるバランスの良い食事提供が出来る。体操や散歩を行っている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	拒否がある場合は時間をずらしたり職員の交代や、音楽を流したりしてリラックスされ本人のタイミングで入浴をして貰うように努める。夕方に入る事もある。		入浴は原則週2回としているが、本人の希望や体調に合わせて柔軟に支援している。入浴を拒む人には、日時を変更したり、音楽を流してリラックスさせる等工夫して支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間は出来るだけ安眠して頂けるように、支援に努めている。自分で休息がとれない方へは誘導・介助を行う。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬がある方には、手渡し・飲み込み確認まで行い、チェックもしている。又、服薬の目的と副作用等の理解をしている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの趣味や興味がありそうなを見つけ、喜びや楽しみがある生活をして頂いている。天気が良い日には、ドライブに行っている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	自由に玄関前の遊歩道を歩いて貰ったり、玄関前に設置してあるベンチにて休息等を取って頂いている。御家族の協力を頂き、外出や外食等の支援をしている。		できるだけ戸外に出かけられるよう年間計画を立て、家族の協力も得て、月に1回はドライブや外食、買物等に出かけている。また、日常的に玄関前の歩道を散歩している。	

自己	外部	項目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	近くのコンビニやスーパーに行き、可能な方にお金を渡し、買い物をする楽しみやお金に対する大切さを感じて頂く。金銭の管理は、施設で行う。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	職員が、利用者の前でダイヤルを回し対応を行う。この時、話して頂く事もある。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ソファを2つ設置しつろげる空間の提供と室内の温度も温度計を設置し、管理している。季節や行事にあった絵を作成している。	採光や湿温、換気等、利用者が快適に生活できるよう配慮している。ホールにはゆったりと過ごせるようにソファが置かれ、壁には利用者と職員が協働で作成した季節感のあるぬり絵が飾られ、居心地よく過ごせるよう工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	会議室を安らぎの場として使用出来るようにし、1人になれたり他の利用者と楽しく会話出来る空間作りに努めている。又、ホール内のテーブルの配置の工夫を行う。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	御家族の協力により、必要な物や馴染みのある物を置いて頂く。居心地良く過ごせるように努める。	家族と相談しながら、利用者の希望や個性を生かした部屋づくりを支援している。部屋には運動器具やテレビ、写真等を持ち込み、安心して生活できるよう支援している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に生活が送れるように、さりげなく見守りを行い、自分で出来る事はして頂く。又、分かりにくい場所是用紙に見えやすい表記で貼り、分かりやすいようにしている。			